

阿見町立学校再編計画（概要）

修正版

再編計画策定にあたって

わが国では少子高齢化の進展に伴い人口が減少し、経済分野における活力の低下や社会保障の負担増と合わせて、子どもや子育て環境への影響が懸念されています。当町においても、全体の児童・生徒数は減少傾向にあります。人口増加地区では児童・生徒数が急増しています。こうした学校環境の変化は、児童・生徒の教育条件、教育環境、学校運営等にさまざまな影響を及ぼしています。

こうした状況を踏まえ、阿見町では、地域・保護者・学校関係者の代表や有識者等で構成する「阿見町立学校再編検討委員会」を組織し、町の実情に即した町立学校の適正な学校規模や適正配置など、学校再編に関する「阿見町立学校再編計画」を平成27年3月に策定しました。

教育委員会では、この学校再編計画に基づき再編を進めてきましたが、計画策定から期間を経て、現在の教育をめぐる状況や学校教育の充実に向けた新たな課題に対応するために、当該計画の修正が必要となってきました。

このため、令和元年11月に再び「阿見町立学校再編検討委員会」を組織し、現状に即した「阿見町立学校再編計画（修正版）」の策定を行いました。

本計画に基づく学校再編の推進にあたっては、豊かな自然環境に生まれ育まれてきた町の風土・歴史・伝統を踏まえるとともに、保護者、地域住民、学校、教育委員会が協議して合意形成を図りながら、次代を担う子どもたちの「生きる力」を育てる教育環境の整備を目指します。

令和元年 12 月

阿見町教育委員会

3. 再編の基本方針

(1) 学校規模の基本的な考え方

学校教育には、児童・生徒がさまざまな人間関係を体験することにより、豊かな人間性や社会性、思いやりのある心を育てていく役割が強く期待されており、小中学校の規模は、教育活動や児童・生徒の学校生活を左右する重要な要件の一つであると考えています。

このことから、子どもたちにとってより良い教育環境の充実を目指して、学校施設・学校経営・地域との関係の観点、また、国や県の基準などを参考に、阿見町の望ましい学校規模の基本的な考え方を定めます。

(2) 望ましい学校規模

① 小学校

児童にとって、クラス替えを通じてさまざまな人間関係が生まれ、そこから多様な価値観・学習意欲・よい意味でのライバル意識が芽生えるための環境整備が必要です。

また、学校教育活動では、総合的な学習の時間等で課題別活動に幅を持たせること、体育的、文化的学校行事において学級ごとに取り組めるなど、集団としての教育を考慮した教育活動を実践していくことが重要です。

さらに教員にとって、一つの学年に複数の学級があることは教員相互の研修が可能となるほか、適正な校務分掌を図ることが可能となります。

これらを踏まえ、小学校における望ましい学校規模を次のとおりとします。

●一学年2学級以上（概ね一学年2～4学級）

※学校全体では12～24学級

ただし、小規模特認校を除く

② 中学校

中学校は教科担任制であることから、各教科に専門の教員を確保することが必要となります。同じ教科を担当する教員を複数配置することにより、多様な学習・指導形態がとりやすく、指導方法の向上を図ることができます。

これらを踏まえ、中学校における望ましい学校規模を次のとおりとします。

●一学年3学級以上（概ね一学年3～6学級）

※学校全体では9～18学級

〔案1〕阿見町立学校再編計画を見直す案 学校再編検討委員会資料

(3) 適正配置の基本的な考え方

児童・生徒数の減少が予想される中、安定的に望ましい学校規模が確保できない小学校については、統合を視野に入れた段階的な対応が必要となっています。

一方、児童数が増加している本郷小学校区においては、通学区域の検討や新小学校建設に向けた取り組みを進めています。

学校の適正配置にあたっては、これまで学校が地域で果たしてきた役割や地域の実情を十分に配慮した上で、保護者、地域住民、学校関係者などに対し、学級数等の将来推計、学校の小規模化による問題点等について説明するとともに、十分に協議するなど、適正配置の必要性に関する共通理解と協力を得て進めることが必要です。

これらを踏まえ、学校の適正配置の基本的な考え方を次のとおりとします。

① 小学校

- 本郷地区に新設する小学校を含めて、町全域の配置を検討する。
- 望ましい学校規模に満たない学校は、遠距離通学者への配慮をして、隣接校との統合を検討する。

② 中学校

- 望ましい学校規模であるため、現状のままとする。

(4) 小規模特認校について

君原小学校地区からの要望を踏まえ、君原小学校に学校選択制の一つである小規模特認校制度を導入し、少人数での教育の良さを活かした、きめ細かな指導や特色ある教育を行います。多様な学習環境を提供することの有効性、必要性を鑑み、より良い教育環境づくりを進めるため、町内全域から児童を受け入れます。

〔案1〕阿見町立学校再編計画を見直しする案 学校再編検討委員会資料

4. 再編計画

(1) 再編実施方針

① 児童数の将来推計、通学等を考慮した具体的な適正配置

望ましい学校規模、適正配置の基本的な考え方を踏まえ、町立小学校の適正配置を次のように設定します。

- 進学する中学校を基本に小規模校を隣接校に統合する。
- 実穀小、吉原小、阿見第二小を隣接校に統合し、本郷小の一部を新設校に分離し6校に再編する。
- 小中一貫教育については、「阿見町教育推進委員会」を充実させ、今後、他の市町村の実施状況等を参考にして、阿見町の児童・生徒の実態に合った教育について継続して調査・研究を行う。
- 君原小を小規模特認校とする。

